

2 保健主事の実務のために

(1) 学校保健計画の作成

学校保健計画は、学校保健の年間を見通した総合的な基本計画です。保健主事は、学校保健計画作成の中心になるとともに、計画に位置付いた学校保健活動がすべての教職員により組織的に推進されるように、連絡・調整する役割を担っています。



Q1 学校保健計画を作成するには？

初めて保健主事となりました。どのように学校保健計画を作成していけばよいのでしょうか。



A1

- これまでの学校保健計画の評価や関係者の意見など情報を収集し、計画の方向性や作成の手順の方針を定めましょう。
- 学校保健活動にかかわる人たちの協力を得ながら、計画の方向性や作成の手順を確認し、みんなで知恵を出し合って作成しましょう。



計画の作成に当たっては、学校保健安全法の規定や行政上の要請を踏まえることも必要ですが、学校の実態を踏まえ、児童生徒や教職員の健康の保持増進や自校の健康課題の解決につながるものが重要です。そのためには、「保健主事が中心となって作成する」とは、責任や負担を一人で負うということではなく、「学校保健活動にかかわる人たちを結ぶ」と考え、これらの人たちの意識や意欲を高める適切な働きかけを行い、活動の充実につながる計画にすることが大切です。

具体的には、まず学校保健安全法等の関連法令（巻末の付録参照）を確認するとともに、前年度の学校保健計画についての評価や関係者の意見などの情報を収集します。前任者からの申し送り事項や前年度の反省と次年度への展望、先進校の事例や資料等からの情報を参考に、保健主事として学校保健計画の方向性や作成の手順について方針を定めます。学校保健計画の方向性については、校長等の管理職に報告・相談するとともに、そこで得られた指導・助言を計画に生かしていくことも重要です。

続いて、学校保健活動にかかわる人たちに相談することにより協力者を見つけます。重要なことは、計画の方向性や作成の手順を関係者に明確に示し、共通理解を図ることです。それに基づき、保健主事のリーダーシップのもと、分掌等の組織と連携し、みんなで計画を作成していくとよいでしょう。

なお、学校保健計画の様式について、法令などで定めはありませんが、学校保健計画の性格から、教育目標、学校保健目標、重点目標、役割分担、年間計画一覧などが盛り込まれる内容として考えられます。

《学校保健計画を作成するための手順と保健主事の働きかけの例》

実践項目・順序	保健主事としての働きかけ
情報の収集と作成方針の決定	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健安全法等を踏まえ、保健主事として全体像をとらえ、計画作成の方向性を定める。 ○評価記録や申し送りなどから課題をとらえる。 ○保健部で協力し、各担当など関係者との意見交換を進める。 ○管理職への報告・相談を適宜行う。 ○保健部会を開き、集めた情報から課題を絞り込む。
目標や活動の内容の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○校長の経営ビジョンと、情報の分析によって明らかになった健康課題を照らし合わせる。 ○管理職から指導・助言を受け、保健部会で学校保健目標や重点目標の案を決定する。 ○学年部会・分掌から情報をもらい学年保健目標や活動事項を設定する。 ○具体的な学校保健活動の確認と調整をする。
各組織との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年部、関連教科、特別活動などの担当者と指導する内容や時期、授業時数等について確認・調整をする。 ○児童（生徒）会やPTA、地域の関係機関等と一緒にできる活動について事業の調整をする。 ○学校保健委員会の開催予定を確認する。
学校保健計画の決定	<ul style="list-style-type: none"> ○保健部で協議し、目標や活動内容を学校の全体計画に位置付ける。 ○保健部以外の各部と調整・確認をする。 ○管理職からの指導・助言を生かす。

《情報収集や協力の輪を広げる際に配慮すべき事項の例》

- 前任者からの申し送り事項や計画作成に関する記録を参考にしましょう。
- 保健主事自身が学校保健や子どもの健康について関心をもちましょう。関心をもつことが有効な情報の収集につながります。
- 関係者との情報交換をこまめに行ったり、学校評価や各事業ごとの評価を参考にすることで、保健主事の働きかけが、関係者や子どもたちにとってどのように受け止められているのかをとらえましょう。
- 「どうしたいのか」「どのようにしたらよいか」の改善策に関する情報を求めましょう。
- 保健部会を定期的で開催し、保健部員との連携を図りましょう。会合終了時に次回の会合予定を確認します。また、合意形成が必要な案件は、臨時に打合せをするとよいでしょう。
- 職員会議や打合せ等を活用し、全職員の共通理解を図りましょう。
- 管理職への報告・相談で得られた指導・助言を生かしましょう。

《学校保健計画の例》

平成〇〇年度〇〇中学校 学校保健計画

- 1 学校教育目標 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成
 - ・自分で考え進んで学ぶ生徒
 - ・素直で明るく思いやりのある生徒
 - ・健康で、最後までやりぬく生徒

- 2 学校保健目標 心身共に健康で明るく日常生活を営むための基本的な資質・能力を養うことができる生徒の育成

- 3 重点目標
 - (1) 健康に関する理解を通して、自主的に心身の健康づくりを行う資質・能力を養う。
 - (2) 心身の発達の段階に応じた個別・集団の指導により、積極的・協力的に健康課題を解決できる資質・能力を養う。
 - (3) 学校の環境について関心を高め、集団の健康の保持増進に努める態度を養う。

- 4 方針・分担等
 - (1) 保健管理と保健教育の調和を図り、学校教育全体を通じて計画的に実施に当たる。
 - (2) 学校保健委員会、生徒会、PTA、地域社会等との連携を図り、健康推進にかかわる人々と一体となって取り組む。
 - (3) 望ましい学校環境をつくり、より健康で快適な学校生活が送れるよう配慮する。
 - (4) 学校保健委員会については、保健主事を中心に保健部で事務局を担当する。

- 5 年間計画一覧

月	保健教育	保健管理	組織活動	備考
4	・保健指導計画の決定 ・保健指導教材の確認 【特別活動】学級活動 1年「望ましい生活習慣」	・健康調査の実施 ・健康診断計画立案 ・身体計測 ・視力検査、聴力検査 ・机、椅子の調整 ・内科検診	・係分掌の決定 ・保健部定例会 ・学校保健委員会組織 ・PTA保健委員会	・入学式 ・PTA総会 ・生徒会組織会 ・部活動組織会
5	【保健体育】保健分野 2年「健康と環境」	・歯科検診 ・耳鼻科検診 ・飲料水の検査	・保健部定例会 ・第1回学校保健委員会	・生徒会総会

Q2 学校保健計画を改善するには？

保健主事として、学校保健計画を毎年どのように改善していけばよいでしょうか。



A2

- 評価を充実させましょう。
- 評価の結果を次年度に確実に引継ぎましょう。

よりよい学校保健計画にするためには、計画のどの部分が停滞しているのか、それはなぜなのかといった原因を把握し、改善に向けた取組を計画に位置付けるなど、評価を充実する必要があります。

具体的には、計画そのものと実施した学校保健活動の両方を評価することが重要です。学校保健活動が終了するたびに評価することができれば申し分ありません。保健主事が一人ですべてを行うと考えるのではなく、定期的に行われる学校評価に保健に関する事項をしっかりと位置付けたり、主な活動の担当者に『評価カード』等を配付してもらい、関係者の意見をまとめてもらうなどの工夫を試みましょう。保健主事として、評価を充実させ、計画の改善に生かすことは、目の前にいる児童生徒の健康課題の解決につながるのです。下に示した「学校保健計画を見直す手順」を参考に、取り組んでみましょう。

また、計画の方針や作成の手順、改善すべき事項などを的確に次年度（次の担当者）へ引き継ぐことが重要です。これら計画作成に関する内容について、だれが見ても分かりやすく活用しやすいように整理して引き継ぐことは保健主事の大切な職務の一つです。

さらに、先進校の事例などを参考にすることも、学校保健活動を見直したり、自校の計画の課題を発見したりすることに役立ち効果的です。

《学校保健計画を見直す手順の例》

項目・手順	保健主事の働きかけ
計画の実施状況と課題となっている原因の把握	<ul style="list-style-type: none"> ○保健部など関係者に対し、実態把握を依頼する。 ○保健部会を開いて、問題点を分析し課題を明確にする。
評価・改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○主な活動の評価を実施する。 ○評価結果並びに改善策を職員へ周知する。 ○早急に見直しが必要な箇所の改善を依頼する。 ○先進校の事例を参考に、自校の取組を見直す。
次年度への確実な引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度に向けての改善策を記録し引き継ぐ準備をする。 ○改善が必要な事項について、管理職や学校評価担当者に対し学校評価へ位置付けるよう働きかける。

《学校保健計画を見直すための評価視点例》

- 《全般》 ○学校保健に関する評価・記録が生かされていますか。
○児童生徒の実態に即したものとなっていますか。
○保健部会、保護者、関係機関等の意見が生かされていますか。
○学校保健目標が反映されていますか。
○評価の実施が位置付けられていますか。
- 《保健教育》 ○保健教育で行う時間が適切に確保されていますか。
○教科等において保健に関する内容の理解が深まるよう配慮されていますか。
○学級（ホームルーム）活動における保健指導が効果的に行われていますか。
○学校行事等における保健指導が適切に行われていますか。
○児童（生徒）会活動等における保健指導が適切に行われていますか。
○部活動も含めた学校生活における日常の保健指導が適切に行われていますか。
○個別の保健指導が適切に行われていますか。
- 《保健管理》 ○健康診断が適切かつ効果的に行われていますか。
○健康相談が計画的に行われていますか。
○学校環境衛生検査及び学校環境衛生活動等が適切に行われていますか。
○健康に問題がある児童生徒の管理が適切に行われていますか。
○法令集及び法令に基づく公表簿等や必要な記録が整理されていますか。
- 《組織活動》 ○組織活動が位置付けられていますか。
○教職員の協力体制が確立され、活動が円滑に行われていますか。
○家庭やPTA等との連携が図られていますか。
○学校保健委員会が開催され、健康に関する課題が解決されていますか。
○関係機関・団体など地域との連携が図られていますか。

《各活動後の評価カードの例》

「評価カード」

氏名_____

本日実施しました_____について、御意見や御感想をお願いします。

- 1 企画・準備・運営について該当するものを○で囲んでください。
・大変よい ・どちらかといえばよい ・どちらかといえば悪い ・悪い
* 上記のように回答した理由をお書きください

- 2 反省や感想があれば御記入ください。今後の参考にさせていただきます。
御協力ありがとうございました。保健主事〇〇まで提出願います。

* 寄せられた意見等については、職員会議等で報告するようにしましょう。このことにより、多くの職員からカードが提出されることとなり、学校保健計画や学校保健活動の推進に役立つこととなります。

(2) 校内組織における活動の推進

校内組織の体制を整え、その活動を推進していくことは、学校保健活動が活性化し、児童生徒の心身の健康の保持増進につながります。保健主事として、関係する教職員が学校保健活動の意識を高め、協力して活動が展開できる組織づくりを心がけましょう。そして、組織の一人一人がそれぞれの持ち味を出せるように、体制を整えましょう。

Q1 校内組織体制を確立するには？

保健主事として学校保健活動の校内組織体制を整えていきたいと考えています。どのようにすればよいのでしょうか。



A1

- 業務の明確化、分担の適切さ、組織として動いているか、といった視点から組織の状態をとらえましょう。
- 組織図を作成してみましょう。



組織体制を確立するには、まずは、組織の状態をとらえること（組織診断）が大切です。校内組織体制の現状から、組織図に示された担当者が、どのように役割や責任をもち、実際に動いているのか確認します。これらを正確にとらえるには、組織の責任者である校長と連絡・調整を密にすることです。そして、実際に各担当者との確認を密にすることが大切になるでしょう。

その際の視点には、業務の明確化、分担の適切さ、組織として動いているか、といったものがあります

一つめの、業務の明確化については、それぞれの担当で行っているものを明確にしていくことです。その際、学校保健目標や計画に照らして、それを実施するのに必要な事項を満たしているか、業務内容自体に欠落しているものはないか、学校保健活動の充実に向けて追加した方がよいと考えられる事項はあるか、といったことが考えられます。

二つめの、分担の適切さについては、業務内容が組織の人数で分担可能なのか、各担当に配列した事項が、担当によって負担が多すぎ（少なすぎ）ではないか、担当の得意分野を生かしているか、といったことが考えられます。

三つめの、組織として動いているかについては、各係内部の役割分担や連絡が伝わっているか、各係が他の係との役割分担や連絡をとって動いているか、といったことが考えられます。組織として動いているかどうかを見極める方法の一つに、34～39ページの「学校保健活動の一年間の流れ」の例のようにタイムスケジュールを作成することが挙げられます。

組織体制を確立するには、校長と連絡・調整するとともに、業務の明確化、分担の適切さ、組織として動いているか、という視点で組織の状態をとらえることが大切です。そして、それを組織図にしてみることです。例えば、学校保健活動を動かす組織図を、各担当の間を線で結ぶ、関連が強い場合

は太さで強調する、方向性がある場合は矢印をつける、といった示し方でシステムとしての全体像を作成していただくことです。それによって、組織の特徴が分かりますので、それを参考にバランスよく組織体制を整えることができるのです。

Q2 学校保健活動のスケジュールは？

保健主事として学校保健活動のスケジュールを立てていきたいと考えています。スケジュールを立てるには、どのようにしていけばよいのでしょうか。



A2



- まずは、実施までの全体の流れをとらえてみましょう。そして、残り時間を割り出しましょう。次に、実施しなければならない項目を挙げましょう。
- その視点には、担当者、施設・用具、経費、情報といったものがあります。
- 時系列（時間軸）で流れを作成しましょう。

学校保健活動のスケジュールを立てるには、まずは、実施までの全体の流れを大枠でとらえることです。それから、実施までの残り時間（日数）を割り出すことが大切です。次に、当日に実施するものを出口として想定し、それに必要な事項を具体的に項目や箇条書きにして書き出すことが大切になるでしょう。

これらの視点には、担当者、施設・用具、経費、情報などがあげられます。

一つめの担当者については、準備のための打合せや実施の方向性等について、分掌内で検討したり、校内組織として検討したりすることがあります。校内の教職員にはそれぞれの担当があり、それらに割かれる時間があるので、それを踏まえて時間を確保します。また、外部から講師等を招へいする場合は、日時を押さえることがスケジュールを立てる場合に、最も優先されるといえるでしょう。

二つめの施設・用具については、当日の実施に必要な施設の予約及び使用する用具の準備の確認をすることがあります。例年、使用している施設であっても、年度ごとに施設利用の手続きをする必要がありますから、いつまでに、どんな手続きで行うのかを確認します。用具についても、毎年購入しているものや不足が生じているものなどを確認します。

三つめの経費については、用具等の購入、会場使用料、講師料などを積算することがあります。

四つめの情報については、実施に当たって、何を、どのように伝えるかを確認し、広報資料や当日に準備する資料等の検討をすることがあります。

学校保健活動のスケジュールを立てるには、これらの項目について、当日から逆算して、何日までに、何を、だれが、どのように準備するのかを時系列（時間軸）で一覧にし、組織が活性化するように、役割分担をしていけるとよいでしょう。

Q3 組織的推進の手順や方法は？

保健主事として学校保健活動を組織的に推進していきたいと考えています。そのために、どのような手順や方法で取り組んでいったらよいのでしょうか。

**A3**

- 学校保健活動を組織的に推進するためのP D C Aのマネジメントサイクルを機能させましょう。
- それらを動かしている組織と組織をつなぐために保健主事としてリーダーシップを発揮しましょう。

学校保健活動を組織的に推進するための手順としては、まずは、組織に対してP D C Aのマネジメントサイクルを機能させることです。計画（P）、実施（D）、評価（C）、改善（A）のマネジメントサイクルは、プロセスの方法論としてとらえましょう。そして、校長との連絡・調整を密にしながら保健主事としてリーダーシップを発揮することです。

学校保健活動を組織的に推進するには、人間関係づくりがとても重要になります。保健主事のリーダーシップで重要なことは、保健部の関係教職員、学年主任や分掌の主任等との情報交換ができるように働きかけることです。例えば、集団維持機能としての配慮を意識しながら、励ましやねぎらいを意識して人間関係をつくりましょう。

P D C Aのマネジメントサイクルを機能させるには、例えば、学校行事の当日においてP D C Aのマネジメントサイクルを動かすことです。実施中（D）に不都合があったり、うまくいかなかったりした事柄（C）や、その事柄についての改善策（A）について各担当がその場でメモをとっておくことが考えられます。保健主事としては、このような仕組みになっているかを計画段階で確認しておきます。そして、各担当者によってメモされた改善策を事後に集約し、計画が効果的であったか、活動が組織的に展開されたか、活動が児童生徒の健康の保持増進につながっているかなどの視点で検討し、次の改善策を見いだすようにすることです。

これらの検討は、保健主事としてどのように対応するかを明確にするようにします。例えば、学校保健活動がうまく展開されるように、組織の話し合いでのリーダーシップを発揮することです。この話し合いには、分掌組織などの内部の話し合いや校内組織ごとの組織と組織をつなぐ話し合いなどがあります。これらの話し合いにおいて、リーダーとして次の改善策を見つめるようにすることは、重要な視点となるでしょう。すなわち、実施中に明らかになった課題に対する改善策は、次の機会の各担当者や係の仕事として委任可能なものと、組織で引き取ったり、保健主事が直接かかわったりする必要のあるものとを分類して判断していくことが求められます。学校保健活動において、人と人、組織と組織をつないでいくことへの働きかけは、ほかならない保健主事のリーダーシップによるものなのです。